

2021 年度 事業報告書（案）

日本河川・流域再生ネットワーク

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

2021 年度は、国内においては感染防止対策に努めながら、川づくりに関わる情報共有基盤の整備、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発に取り組むとともに、国際的な技術交流はオンライン形式で実施しました。また、会員に関しては、団体会員は 63 団体、個人会員は 827 人となりました。

1. 2021 年度実施事業

【1】 川づくりに関わる情報共有基盤整備

国内外の川づくりに関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、ウェブサイト、facebook、YouTube、Instagram、ニュースメール、ニュースレター等を通じて広く社会に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター等）からの川づくりに関わる各種提供情報の共有を図りました。

2021 年度 JRRN 情報媒体の活動実績 ※()は前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ウェブサイト	随時	228 件 (191 件)
facebook	随時	62 件 (18 件 ※不具合発生)
ニュースメール	毎週配信	48 回 (49 回)
ニュースレター	毎月発行	11 回(12 回)

また、「小さな自然再生」研究会の幹事として「水辺の小さな自然再生ウェブサイト」及び「水辺の小さな自然再生 facebook」の運営管理を担い、水辺でできる小さな自然再生に関わる情報共有を推進しました。加えて、ARRN ウェブサイトの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける川づくりに関わる情報の普及に努めました。

【2】川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を企画・運営し、また全国の川づくり団体が取り組む活動の協働・支援を担いました。

(1)「桜のある水辺風景 2021」写真公募

水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的として、「桜のある水辺写真」を Instagram で募集し、事務局推挙の作品を選考し、表彰を行いました。

(2)「水辺の小さな自然再生」現地研修会のシリーズ開催 «河川基金助成事業»

水辺でできる小さな自然再生の全国への普及促進を目的として、小さな自然再生を実践する現場での現地研修会を共催しました。

2021 年度「水辺の小さな自然再生」普及に向けた研修行事

行事名	第 12 回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021 年 11 月 14 日（日）
開催場所	東京都中野区・神田川流域善福寺川
主テーマ	自然観察から都市河川でできることを考えよう
主催	青少年育成鍋横地区委員会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	中野区
参加人数	44 名
行事名	第 13 回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021 年 11 月 21 日（日）
開催場所	滋賀県守山市・野洲川流域大川
主テーマ	河口部・内湖の保全と再生を考える
主催	淡海を守る釣り人の会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	滋賀県、守山市、（一財）セブン-イレブン記念財団
参加人数	34 名
行事名	第 14 回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021 年 11 月 28 日（日）
開催場所	北海道釧路市・釧路川流域支川
主テーマ	釧路川支川の魚類生息環境を再生する
主催	釧路自然保護協会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	釧路市、釧路湿原自然再生協議会 河川環境再生小委員会
参加人数	42 名

(3)「水辺の小さな自然再生」現地研修会の成果普及 《河川基金助成事業》

希少種保護の観点から一般参加者を制限した「第 14 回小さな自然再生現地研修会@北海道釧路市・釧路川流域」について、座学講演講演動画のオンデマンド配信を 1 か月期間限定で実施しました。また、全 3 回の現地研修会の開催概要を開催報告書としてウェブサイトで公表しました。

公開年月	成果	備考
2022 年 2～3 月	「第 14 回小さな自然再生現地研修会@北海道釧路市・釧路川流域」座学講演オンデマンド配信	JRRN ホームページ
2022 年 3 月	第 12 回小さな自然再生現地研修会@東京都中野区・善福寺川 開催報告書（20 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ
2022 年 3 月	第 13 回小さな自然再生現地研修会@滋賀県守山市・野洲川流域大川 開催報告書（36 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ
2022 年 3 月	「第 14 回小さな自然再生現地研修会@北海道釧路市・釧路川流域」開催報告書（72 ページ）	小さな自然再生ホームページ JRRN ホームページ

(5)川づくり団体との協働・支援

JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体が取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援、協働、協力を担いました。

国内の主な協働実績

年月	団体名等	協働内容
通年	JRRN 会員を含む川づくり団体	行事案内や刊行物の広報等（合計 17 件）
通年	水の巡回展ネットワーク(jawanet)	「雨展」企画・運営協力
通年	応用生態工学会	委員会活動協働

【3】川づくりの国際的な技術交流

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的に開催した『第 17 回 ARRN 水辺・流域再生国際フォーラム』にオンライン参加し、「中小河川流域の統合的管理」を主テーマに、日本における川づくりの経験の普及に努めました。また、第 15 回 ARRN 運営会議に参加し、JRRN の一年間の活動報告、及び ARRN の年間活用計画や組織体制等について審議しました。更に、世界銀行が実施する河川再生事例分析に関わる調査検討に ARRN メンバーとして参加し、日本の事例情報を提供しました。

国際的な技術交流実績

年月	団体名等	交流内容
令和 3 年 11 月 16 日	アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)	第 15 回 ARRN 運営会議 第 17 回水辺・流域再生国際フォーラム
令和 3 年 12 月～	ARRN, IWHR, WB	River Restoration State-of-the-Art Overview and Roadmap Development 調査検討参加

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び 2021 年度末現在の会員数は次表の通りです。

2021 年度 JRRN 会員の入会・退会状況

会員区分	2020 年度末	入会数	退会数	現在数
団体会員	61	2	0	63
個人会員	816	11	0	827

2021 年度 収入・支出決算書

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日)

(収入)

＜単位:円＞

項目	予算額	決算額	増減	備考
①前年度繰越金	558,197	558,197	0	
②助成金	990,000	831,135	△ 158,865	河川基金助成事業(2021年6月に助成額確定予定)
③寄付金・謝金等	0	0	0	
④預金利息	9	9	0	
計	1,548,206	1,389,341	△ 158,865	

(支出)

＜単位:円＞

項目	予算額	決算額	増減	備考
①旅費・交通費	400,000	616,420	216,420	研修会出張等
②通信・運搬費	6,000	5,324	△ 676	サーバー契約費等
③資料・印刷費	0	0	0	
④賃貸料	60,000	72,510	12,510	研修機材レンタル等
⑤委託費	360,000	44,000	△ 316,000	小さな自然再生ウェブサイト不具合対応
⑥諸謝金	120,000	103,882	△ 16,118	研修会講師
⑦消耗品費等	90,000	46,033	△ 43,967	研修会消耗品
⑧来年度繰越金	512,206	501,172	△ 11,034	
計	1,548,206	1,389,341	△ 158,865	

※上記は助成金及び寄付金等に関わる収支のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」の自主研究「河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究」より支出しました。